

決算ハイライト

2023年3月期

決算ハイライト

2023年3月期

CONTENTS

1. 損益の状況	1
(1) 業績サマリー【単体】	1
(2) コア業務粗利益【単体】	2
(3) 経費【単体】	2
(4) コア業務純益・コア業務純益（除く投資信託解約損益）【単体】	2
(5) 与信費用【単体】	3
(6) 経常利益・当期純利益【単体】	3
(7) 親会社株主に帰属する当期純利益【連結】	3
2. 貸出金・預金等の状況	4
(1) 貸出金残高【単体】	4
(2) 中小企業向け貸出金残高【単体】	4
(3) 個人ローン残高【単体】	4
(4) 預金等残高【単体】	5
(5) 預り資産残高【単体】	5
3. 利鞘【単体】	5
4. 不良債権の状況（金融再生法開示債権額）【単体】	6
5. 自己資本比率【単体・連結】	6
6. 有価証券の評価損益【単体】	6

1. 損益の状況

(1) 業績サマリー【単体】

- ▶ **コア業務純益(除く投資信託解約損益)**は、貸出金利息が24百万円減少、投資信託解約損益を除く有価証券利息配当金が1億90百万円減少したものの、役務取引等利益が7億69百万円増加したことなどにより、**前年対比3億27百万円増加の17億86百万円**となりました。
- ▶ **経常利益**は、与信費用が86百万円減少したものの、国債等債券損益が5億52百万円減少したことなどにより、**前年対比2億49百万円減少の14億95百万円**となりました。
- ▶ **当期純利益**は、**前年対比1億74百万円減少の10億57百万円**となりました。
- ▶ **期末配当**は、**1株当たり25円**を予定しております。中間配当と合わせた年間配当金は、1株当たり50円となります。

■ 単体業績サマリー

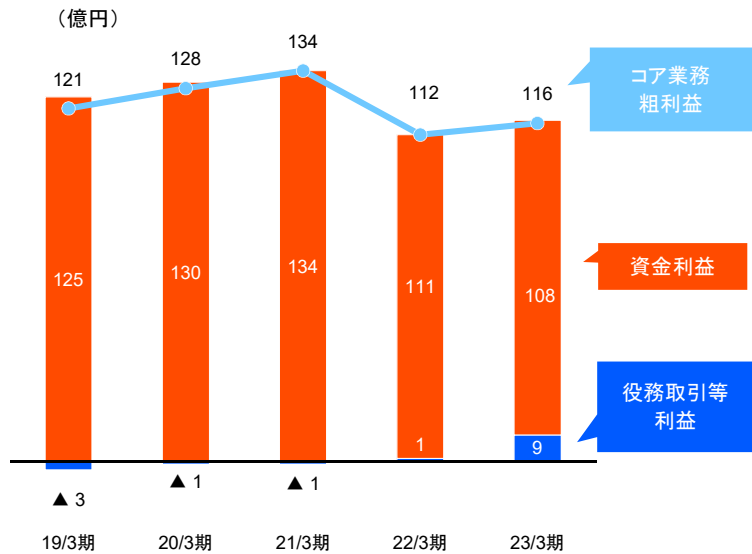
(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前年対比	業績予想
資金利益	11,127	10,877	▲ 250	—
貸出金利息	7,570	7,546	▲ 24	—
有価証券利息配当金	3,522	3,370	▲ 152	—
うち 投資信託解約損益	157	195	38	—
うち 投資信託解約損益を除く	3,364	3,174	▲ 190	—
役務取引等利益	160	929	769	—
その他業務利益(除く国債等債券損益)	▲ 15	▲ 163	▲ 148	—
コア業務粗利益	11,272	11,643	371	—
△ 経費(除く臨時費用分)	9,655	9,660	5	—
コア業務純益 *1	1,617	1,982	365	—
コア業務純益(除く投資信託解約損益)	1,459	1,786	327	1,650
国債等債券損益(5勘定戻)	▲ 126	▲ 678	▲ 552	—
株式等損益(3勘定戻)	402	318	▲ 84	—
△ 与信費用 *2	386	300	▲ 86	—
その他臨時損益	239	175	▲ 64	—
経常利益	1,744	1,495	▲ 249	1,450
特別損益	▲ 2	0	2	—
税引前当期純利益	1,741	1,495	▲ 246	—
当期純利益	1,231	1,057	▲ 174	1,000

*1 コア業務純益 = 資金利益 + 役務取引等利益 + その他業務利益 - 国債等債券損益 - 経費

*2 与信費用 = 不良債権処理額 + 一般貸倒引当金繰入額 - 償却債権取立益

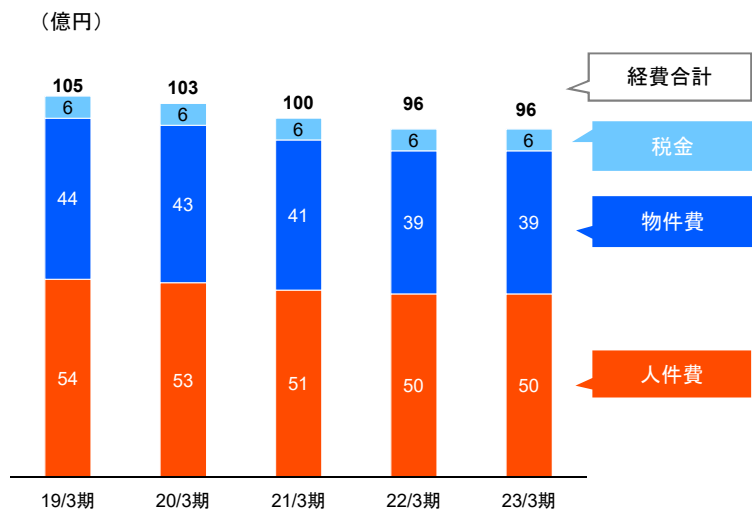
(2)コア業務粗利益【単体】

- ▶ コア業務粗利益は、前年対比3億71百万円増加の116億43百万円となりました。
- ▶ 資金利益は、貸出利息および有価証券利息配当金が減少したこと等により、前年対比2億50百万円減少の108億77百万円となりました。
- ▶ 役務取引等利益は、事業性ローン関連手数料や法人向けコンサルティング手数料、および預り資産関連手数料が増加したこと等により、前年対比7億69百万円増加の9億29百万円となりました。



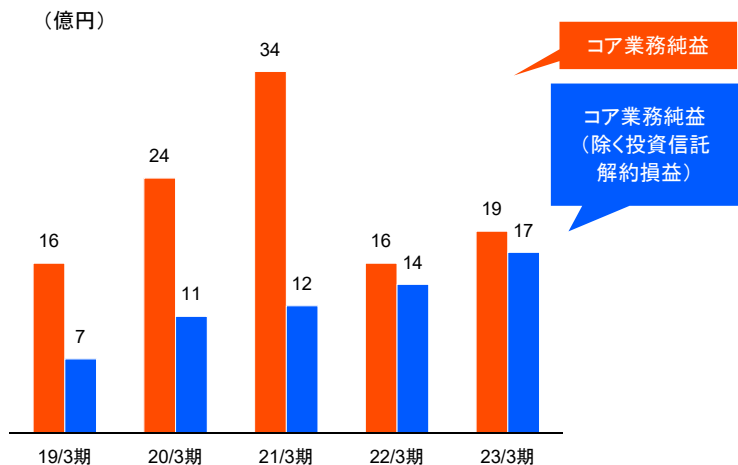
(3)経費【単体】

- ▶ 経費は、前年対比5百万円増加の96億60百万円となりました。
- ▶ 人件費は、前年対比8百万円減少の50億57百万円となりました。
- ▶ 物件費は、預金保険料率の低下や減価償却費の減少などがあったものの、経営統合関連費用の発生などにより、前年対比28百万円増加の39億94百万円となりました。



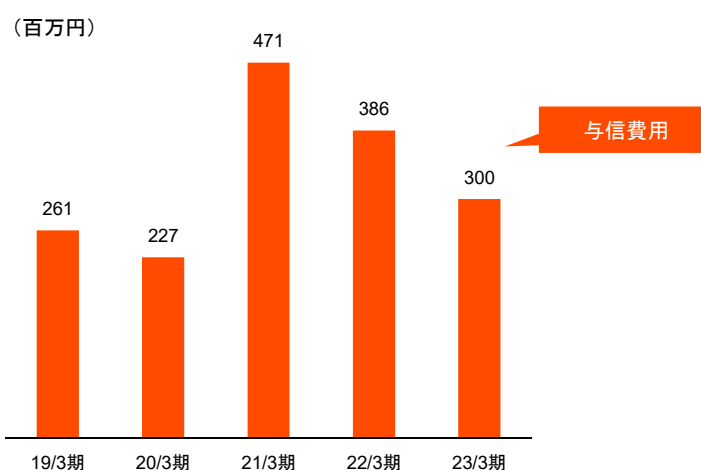
(4)コア業務純益・コア業務純益(除く投資信託解約損益)【単体】

- ▶ コア業務純益は、前年対比3億65百万円増加の19億82百万円となりました。
- ▶ コア業務純益(除く投資信託解約損益)は、前年対比3億27百万円増加の17億86百万円となりました。



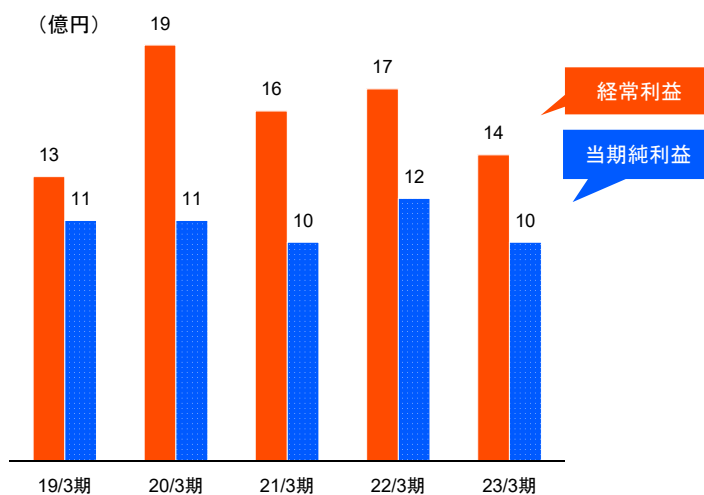
(5) 与信費用【単体】

- ▶ 与信費用は、前年対比86百万円減少の3億円となりました。



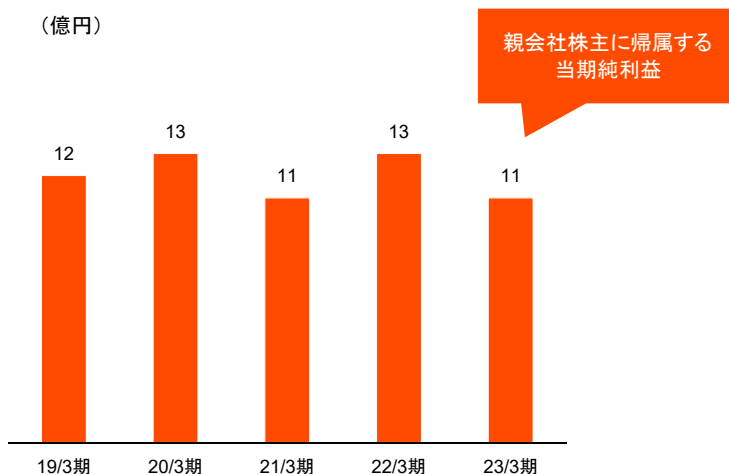
(6) 経常利益・当期純利益【単体】

- ▶ 経常利益は、前年対比2億49百万円減少の14億95百万円となりました。
- ▶ 当期純利益は、前年対比1億74百万円減少の10億57百万円となりました。



(7) 親会社株主に帰属する当期純利益【連結】

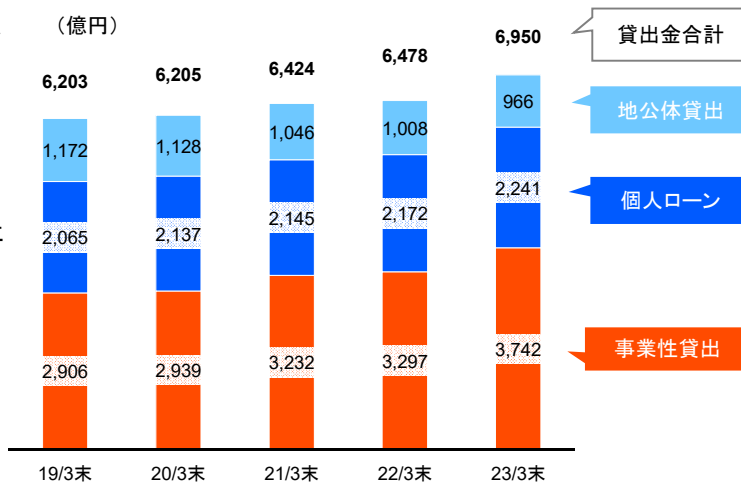
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年対比1億62百万円減少の11億74百万円となりました。
- ▶ 期末配当は、1株当たり25円を予定しております。



2. 貸出金・預金等の状況

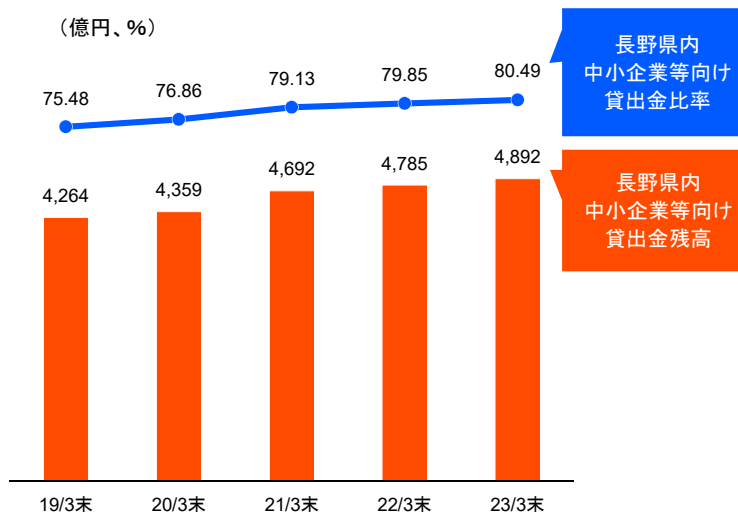
(1) 貸出金残高【単体】

- ▶ 貸出金残高は、事業性貸出および個人ローンが増加した結果、前年対比472億2百万円増加の6,950億82百万円となりました。
- ▶ 事業性貸出は、前年対比445億1百万円増加の3,742億43百万円となりました。
- ▶ 個人ローンは、住宅ローンが増加したこと等により、前年対比68億99百万円増加の2,241億47百万円となりました。



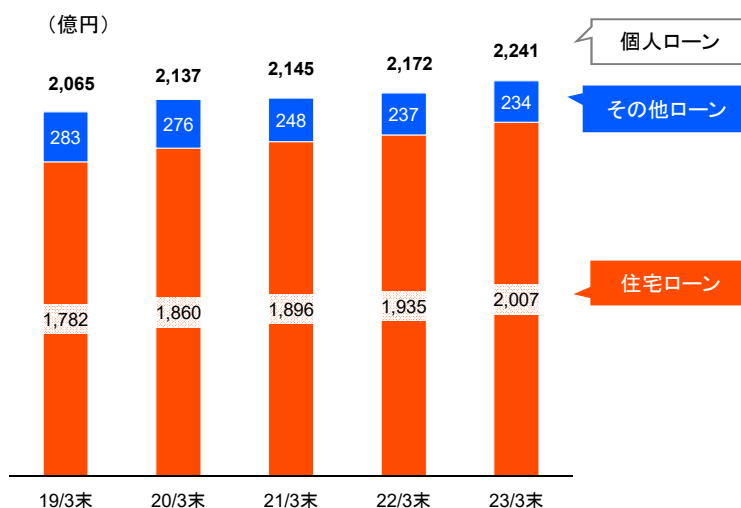
(2) 長野県内の中小企業等向け貸出金残高【単体】

- ▶ 長野県内の中小企業等向け貸出金残高は、前年対比107億11百万円増加の4,892億36百万円となりました。
- ▶ 上記の結果、長野県内貸出金の中小企業等向け貸出金比率は、前年対比0.64ポイント上昇の80.49%となりました。



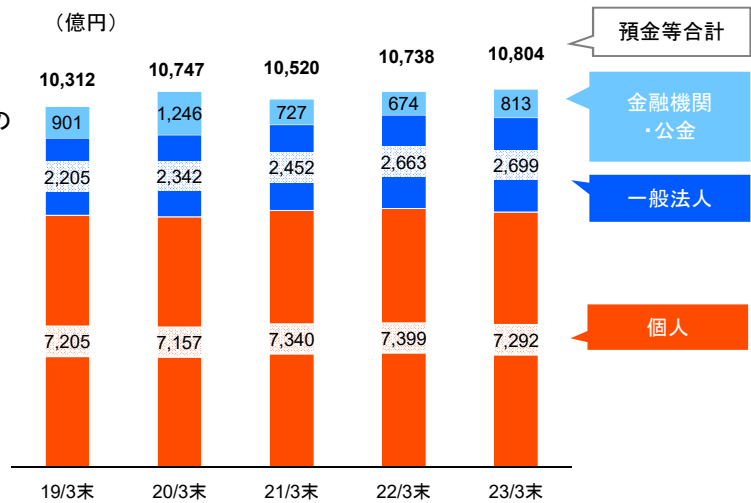
(3) 個人ローン残高【単体】

- ▶ 個人ローンは、前年対比68億99百万円増加の2,241億47百万円となりました。
- ▶ 住宅ローンは、前年対比72億9百万円増加の2,007億13百万円となりました。
- ▶ その他ローンは、前年対比3億10百万円減少の234億34百万円となりました。



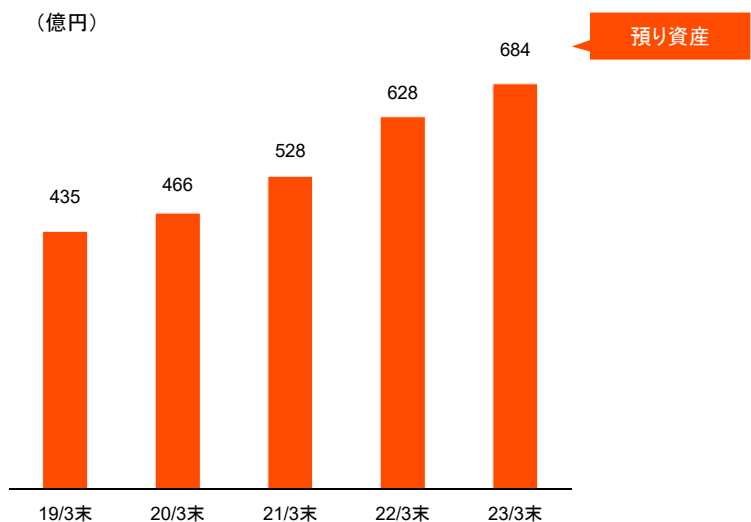
(4) 預金等残高【単体】

- ▶ 預金等残高は、前年対比65億92百万円増加の1兆804億41百万円となりました。
- ▶ 個人預金は、前年対比107億62百万円減少の7,292億23百万円となりました。
- ▶ 一般法人預金は、前年対比35億20百万円増加の2,699億7百万円となりました。
- ▶ 金融機関・公金は、前年対比138億33百万円増加の813億10百万円となりました。



(5) 預り資産残高*【単体】

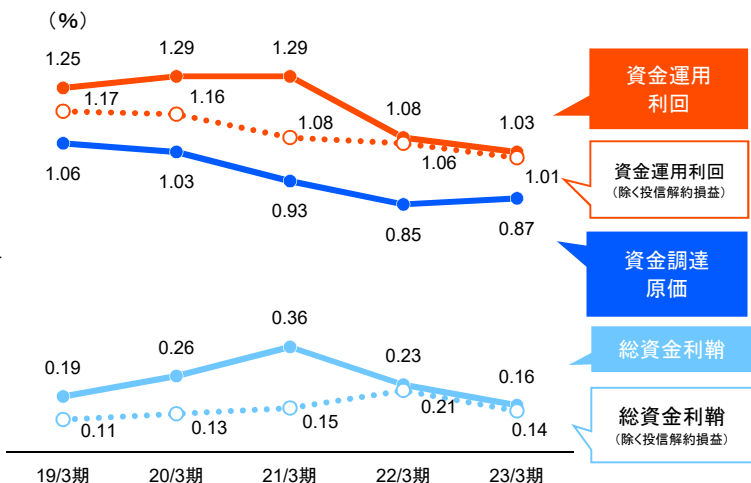
- ▶ 預り資産残高は、保険販売が堅調に推移したこと等により、前年対比55億86百万円増加の684億55百万円となりました。



* 預り資産残高は、個人年金保険、投資信託、公共債等の合計

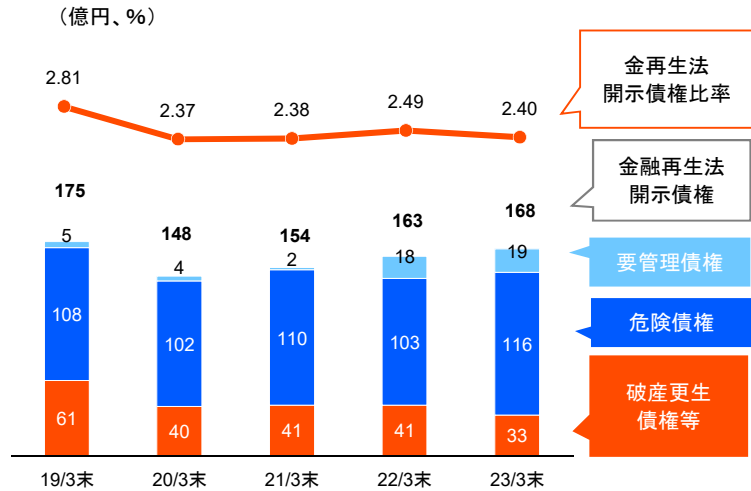
3. 利鞘【単体】

- ▶ 資金運用利回りは、貸出金利回および有価証券利回の低下等により、前年対比0.05ポイント低下の1.03%となりました。
- ▶ 資金運用利回(除く投信解約損益)は、前年対比0.05ポイント低下の1.01%となりました。
- ▶ 資金調達原価は、前年対比0.02ポイント上昇の0.87%となりました。
- ▶ 上記の結果、総資金利鞘は、前年対比0.07ポイント低下の0.16%となりました。
- ▶ 総資金利鞘(除く投信解約損益)は、前年対比0.07ポイント低下の0.14%となりました。



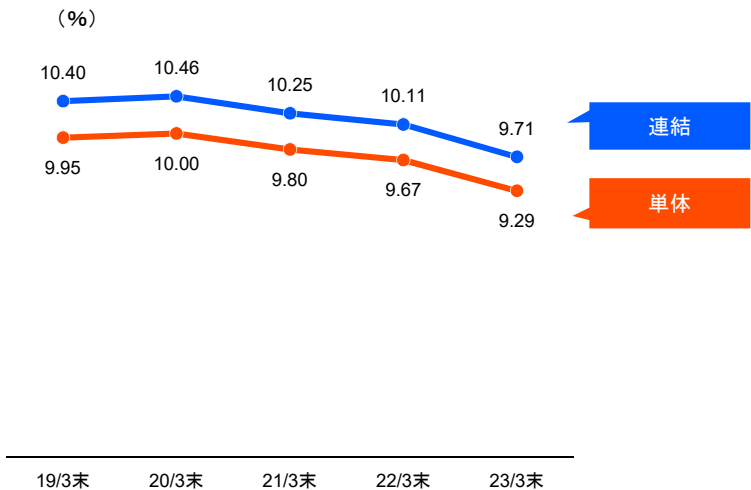
4. 不良債権の状況(金融再生法開示債権額)【単体】

- ▶ 金融再生法開示債権額は、前年対比5億66百万円増加の168億83百万円となりました。
- ▶ 金融再生法開示債権比率は、前年対比0.09ポイント低下の2.40%となりました。
- ▶ 金融再生法開示債権の保全率は、前年対比1.75ポイント低下の80.11%となりました。
- ▶ 部分直接償却を実施した場合の金融再生法開示債権額は151億27百万円、金融再生法開示債権比率は2.16%となりました。



5. 自己資本比率【単体・連結】

- ▶ 単体の自己資本比率は、リスク・アセットの増加等により、前年対比0.38ポイント低下の9.29%となりました。
- ▶ 連結の自己資本比率は、前年対比0.40ポイント低下の9.71%となりました。



6. 有価証券の評価損益【単体】

- ▶ 有価証券の評価損益は、前年対比127億13百万円減少の132億80百万円の評価損となりました。
- ▶ なお、有価証券の評価損益のうち、満期保有目的有価証券の評価損益は31億49百万円の評価損です。

